

減災のための目標(案)について

斐伊川水系における水害の特徴

- ① 宍道湖と日本海の水位差はほとんど無く、洪水氾濫により市街地・住宅地を含む広範囲が長期間にわたり浸水する
○昭和47年7月洪水では、**松江市や出雲平野東部が1週間以上浸水**
- ② 天井川であるため、堤防が決壊すると氾濫流により、多くの家屋が倒壊・流失する
- ③ 上流域は、浸水深が大きく、垂直避難が可能な施設が限られる
→避難に時間を要することから、**早めの避難勧告等の発令が必要**
- ④ 一旦、浸水してしまうと交通網がマヒし、水防活動に支障が生じる
○平成18年7月洪水では、**大橋川に架かる3橋の通行止のため交通網がマヒ**
→斐伊川水系の**氾濫特性を踏まえた効果的な水防活動が必要**
- ⑤ 氾濫域には多くの人口・資産、行政・医療機関、出雲空港、山陰本線といった重要な施設が多数あり、一旦、浸水してしまうと経済活動への影響は甚大
○昭和47年7月洪水では、**出雲空港が10日間にわたり、全面閉鎖**
→浸水を早期に解消するための**効率的な排水対策が必要**
- ⑥ 斐伊川上流域に尾原ダム・志津見ダム、中流域に斐伊川放水路があり、洪水調節等の状況から、下流域の住民が迫り来る危機を容易に想像しやすい。

氾濫特性を踏まえた、適切な目標と取組方針の設定が重要

減災のための目標(案)

●5年間で達成すべき目標

斐伊川治水3点セットの早期完成に向け事業推進を図りつつ、大規模水害に対し、天井川、連結汽水湖の氾濫特性を踏まえたハード・ソフト対策を推進し、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指す。

- ※大規模水害 … 想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害
- ※逃げ遅れ … 立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態
- ※社会経済被害の最小化 … 大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態

■上記達成に向けた3本柱の取組

1. 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組
2. 天井川や湖沼の氾濫特性に応じた効果的な水防活動
3. 長期化する浸水を一日も早く解消するための排水対策

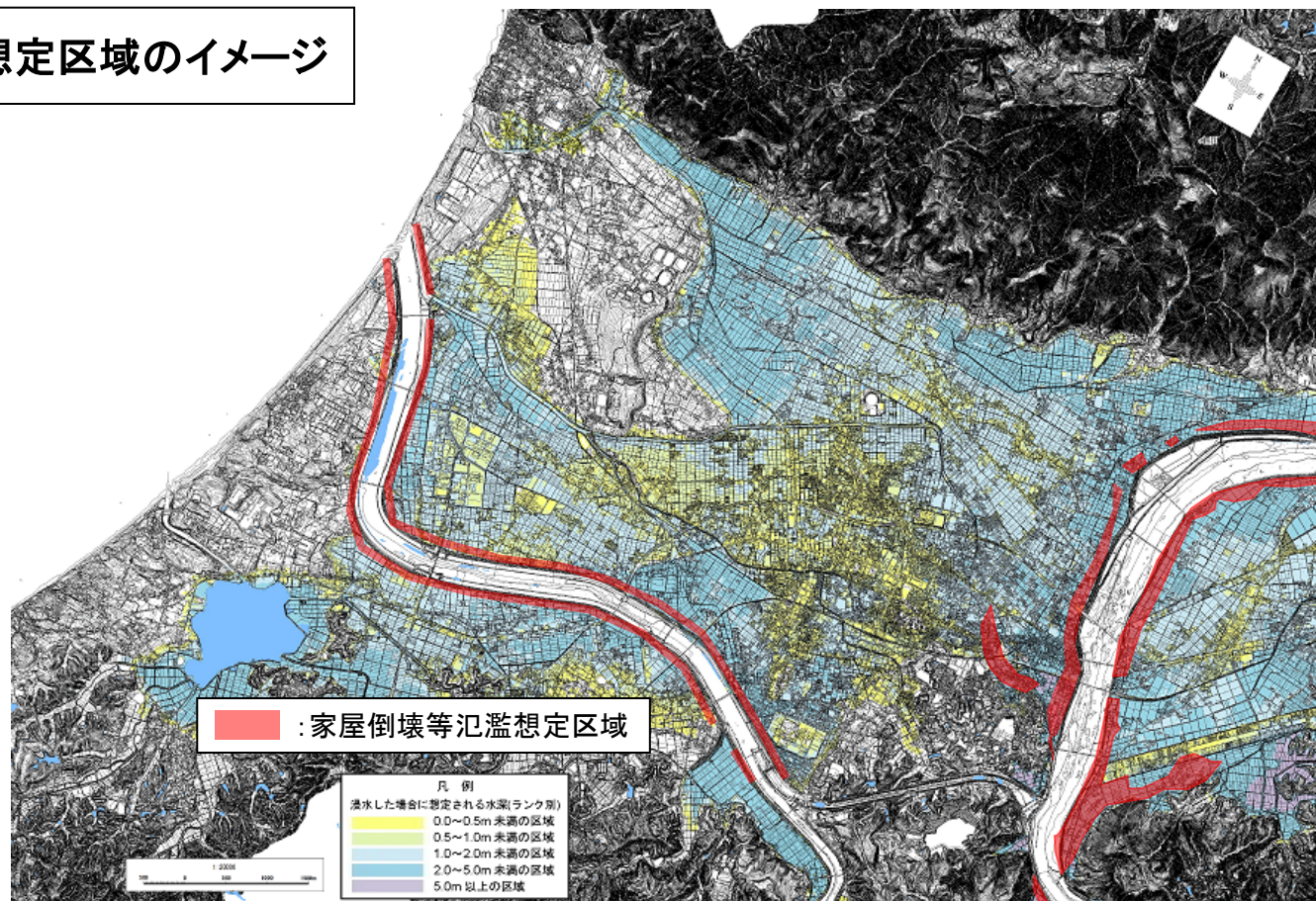
○迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

～情報伝達、避難計画等に関する事項～

タイムラインやハザードマップの作成

- 想定最大規模降雨による洪水の浸水想定を踏まえたタイムラインやハザードマップの作成に取り組む。

洪水浸水想定区域のイメージ



○迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

～情報伝達、避難計画等に関する事項～

河川のリアルタイム映像の提供環境の整備

■出水の規模が大きくなると尾原ダムによる洪水調節や斐伊川放水路からの分流操作を行う。こうした施設運用は沿川住民に対し迫り来る危機を認識させるのに有効であり、リアルタイムの映像情報を配信することで住民の迅速な避難が可能となる。

映像情報を雲南市、出雲市、松江市やテレビ放送等で配信するよう検討を行う。

避難の参考となるダムや河川の状況(イメージ)



例: 尾原ダムの洪水調節



例: 斐伊川放水路の分流



例: 高水敷ゴルフ場の冠水



松江市内冠水

雨の降り始め

0h

6h後

危険度

8h後

12h後

24h後

※時間軸はイメージ

～平時から住民等への周知・教育・訓練に関する事項～

堤防越水時の破壊力に関するイメージ動画の作成・公開

■天井川である斐伊川から越水した流水の破壊力について、数値で示すより映像で示した方が直感的にわかりやすい。斐伊川放水路の分流時の動画を加工し、以下の状況のイメージ動画を作成・公開することで、堤防から越水した流水の破壊力について直感的な注意喚起を促す。

○天井川や湖沼の氾濫特性に応じた効果的な水防活動

～水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項～

水防団や地域住民が参加した重要水防箇所等の合同点検

■重要水防箇所、危険箇所について、河川管理者、水防団、地域住民と共同で点検を行い、情報の共有を図る。

雲南市合同点検(平成27年12月2日)



出雲市合同点検(平成26年6月19日)



関係機関が連携した実践的な水防訓練

■関係機関が連携した水防訓練を例年行っているが、更に実践的な訓練を行う。

平成27年5月31日 斐伊川水防演習(雲南市)



平成27年5月31日 斐伊川水防演習(雲南市)



平成27年5月31日 斐伊川水防演習(雲南市)



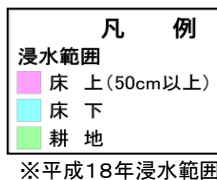
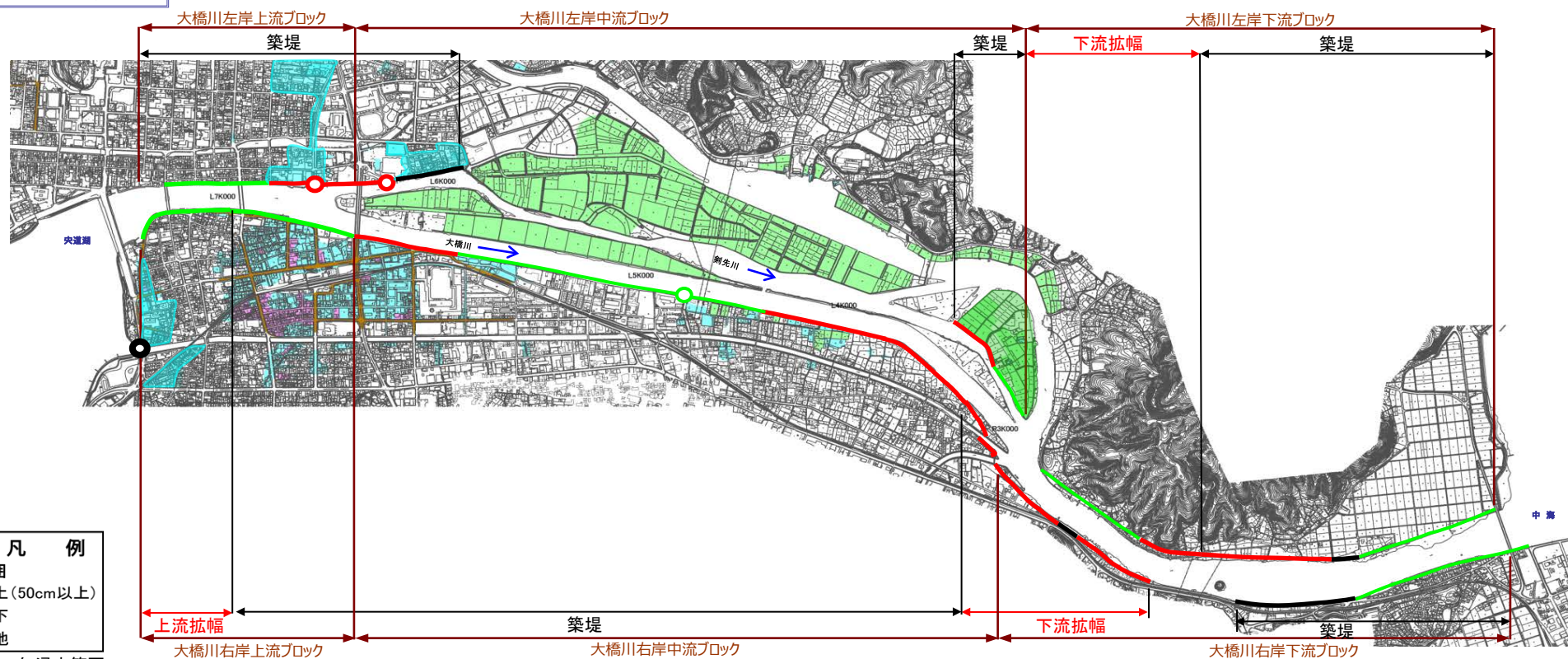
例:漏水対策に有効な月輪工
(砂河川のため、漏水のリスクが高い)

○長期化する浸水を一日も早く解消するための排水対策

～氾濫水の排水、施設運用等に関する取組～

洪水を安全に流すためのハード対策の促進

■ 宍道湖を含め全川にわたって水位低減効果が期待できる狭窄部の拡幅(下流→上流の順)を最優先に事業の促進を図る。



○長期化する浸水を一日も早く解消するための排水対策

～氾濫水の排水、施設運用等に関する取組～

大規模災害を想定した排水計画(案)の作成

■過去の状況から想定される浸水箇所について、排水ポンプ車の設置位置や運搬ルートの確認等の総合的な排水計画を作成する。

例：排水ポンプ車設置訓練状況



例：排水ポンプ車運転状況(平成18年7月)

